

高校3年生 世界史B選択宿題【4月23日】

時代と流れで覚える！世界史B用語集の24ページ～49ページの受験勉強してください。
学校が再開してから、授業内で確認テストを行いたいと思います。

こんにちは。元気にすごしていますか？先週は指定されたページの受験勉強がしっかり出来ましたか？今週は、中国史の受験勉強に時間を費やしてください。漢字が苦手な人もいると思いますが、しっかり覚えて下さいね!!入試まで待たなすです。

受験生の皆さん、こんにちは。

入試モードには移行できましたか？

長期休暇中の学習は自分たちのヤル気がメイン……気持ちが萎えないように長期のスパンで計画を立てましょう。

様々な教科からたくさんの課題が出されているかと思いますが、その取組の順番も意外と大事…得意科目の課題を間に挟み、リフレッシュを兼ねた学習を意識しましょう。

得意な科目がない…？そんな時は思い切って外へ出て、バット振りなさい！ラケット振りなさい！竹刀を振りなさい！

えっ？振るものがない…？トス上げなさい！ドリブルしなさい！…何でもいいので自分たちがリフレッシュできるものを間に挟むのも大事なことですよ。

日本史2回目の課題は『江戸時代の経済発展』について農業・漁業・商業など様々な分野の産業について調べましょう。

2. 経済の発展

〔農業生産の進展〕

A. 新田開発

ア. 治水・灌漑

- ①〔 〕 — 箱根芦ノ湖野水を湖尻峠にトンネルを掘り、駿河駿東郡深良村など数カ村に導いた用水。1670年完成。
- ②〔 〕 — 1728(享保13)年、代官の沢井弥惣兵衛が見沼新田開発のために利根川から引いた用水。

イ. 新田開発 — 本田以外に開発された田畑を新田という。本田畑の耕作を妨げないことを条件に官営・民営の2形式で開発。開発後の3年は免税(**鎌下年季**)で、享保年間に武蔵野新田・下総東金新田などがある。

- ①〔 〕 — 代官が立案実施した新田。代官の報酬として租米の10分の1が支給された(**見立新田十分の一法**)。
- ②〔 〕 — 町人が請け負った開発新田。
〔具体例〕①紫雲寺潟新田(越後) 17,000石
 ②川口新田(摂津) 15,000石

③田畑面積の拡大 — 164万町歩⇒297万町歩

B. 農具

- ア. 深耕用 — 〔 〕
- イ. 脱穀用 — 〔 〕(後家倒し)
- ウ. 選別用 — 〔 〕〔 〕
- エ. 灌漑用 — 〔 〕
- オ. 肥料 — 〔 〕・下肥・〔 〕・〔 〕 [**金肥**]

C. 農学書

ア『清良記』 — 伊予国宇和郡の土居清良をめぐる全33巻の軍記物。第7巻が農業に関するもの。

イ『**農業全書**』 — 宮崎安貞著。1697年刊行の農業技術に関する書。

ウ『 』 — 田中丘隅が徳川吉宗に献上した意見書。1721年に成立。

エ『農具便利論』 — 大蔵永常著。1822年成立。数十種の農具の用法についての書。

オ『**広益国産考**』 — 大蔵永常著。1844年成立。農作物の栽培法・商品作物による利益について述べる。

D. 商品作物の栽培

- ア. 織物 — ()・()・() (三河・摂津・河内)
- イ. 灯油 — 油菜
- ウ. 染料 — 藍(阿波)・紅花(出羽村山〈最上〉地方)

エ. 畳 — 藁草 (備後)

オ. 製紙 — 奉書紙 (越前)・杉原紙 (播磨) など

カ. 嗜好品 — 茶 (駿河・山城宇治)・黒砂糖 (薩摩)

〔諸産業の発達〕

A. 漁業

ア. 網漁

①地曳網—鰯漁（九十九里浜）（→〔 〕・粕へ加工）

鮪漁（肥前五島）・鯨漁（松前）

②釣漁—鯛（瀬戸内海）・鰹（土佐）

③捕鯨—紀伊・土佐・肥前・長門

④〔 〕—いりこ・ほしあわび・ふかのひれ等を俵に詰める。蝦夷地産。

イ. 製塩—瀬戸内海沿岸部で〔 〕が発達。全国の約80%を占める。

B. 林業

ア. 建築資材—木曾桧・秋田杉

イ. 燃料—炭・薪の生産。

C. 鉱山業

ア. 銅—貨幣需要の増大化・長崎貿易の輸出品となる。

イ. 鉄—東北・中国地方では〔 〕（砂鉄と石炭を用いて高踏み式の送風装置のある炉を利用）が行なわれる。ここで生産される〔 〕が全国の鉄製品の原料となる。

〔手工業の多様化〕

A. 織物業

ア. 絹—西陣織（山城）、桐生絹・伊勢崎絹（上野）、足利絹（下野）、上田紬（信州）

イ. 木綿—小倉織（豊前）・久留米緋（筑前）・有松絞（尾張）

ウ. 麻—奈良晒（大和）・越後縮（越後）・近江麻（近江）・薩摩上布薩摩）

エ. 製法

①（ ）—地機ともいう。低い腰掛けで足を前に動かして操作する機織。

②（ ）—高い腰掛けに座り、足を上下に踏む操作をする機織。

B. 製紙業—流漉の普及で全国に生産地が拡大する。学問の発展に大いに貢献する。

ア. 日用紙—美濃・土佐・駿河・石見・伊予

イ. 高級紙—鳥の子紙・奉書紙（越前）・美濃紙（美濃）・杉原紙（播磨）

C. 陶磁器—**有田焼**（伊万里焼／肥前）・**清水焼**（京焼／山城）・**九谷焼**（加賀）・**瀬戸焼**（尾張）

D. 漆器—（ ）塗（陸奥）・（ ）塗（能登）（ ）塗（堺・飛騨・能代）

E. 醸造業

ア. 酒—伏見・灘・伊丹・池田

イ. 醤油—野田・銚子・京都・竜野

F. 工業形態

- ア () — 農家が原料・生産手段(機械)を自弁で購入して、農業と並行して生産を営む生産形態。
- イ () — 都市の間屋商人が、資金・原料を農家に貸与して、生産を営む生産形態。

〔商業の展開〕

A. 商人の成長

ア. **初期豪商** — 海外貿易や全国的な商業取引きを背景に巨利を得た堺・博多・京都の商人。

- ① () — 1552-1627、堺の茶人。今井宗及の子。豊臣秀吉・徳川家康に仕えて茶頭となる。
- ② () — 1554-1614、京都の角倉氏〔土倉〕一族。糸割符商人として朱印船貿易を営む。大堰川・富士川・高瀬川などの水路開発に従事する。
- ③ () — 茶屋家歴代の通称。京都の豪商。糸割符仲間として朱印船貿易を営み巨利を得る。
- ④ () — ?-1630、博多の豪商の子で、長崎で朱印船貿易を営む。

イ. **元禄豪商** — 三都の発達にともない独自の商品により巨利を蓄えた商人。両替商を兼ねることが多い。

- ① () — 伊丹の酒造家。海運・掛屋・両替商などで発展。
- ② () — 伊勢松坂。高利が越後屋呉服店および両替商を営み発展する。

B. 商業機構

ア. 問屋の発達 — 三都の発達にともない流通機構が固定化されることにより問屋商人の活動が商品流通機構の中心となる。

イ. 株仲間 — 同業者集団のことで特定商品の販売独占権を握る。

- ① () — 1694年成立。江戸の荷受問屋。種々の商品を10組に分け、大坂の二十四組問屋から廻送される品物を荷受けする。1813年に杉本茂十郎が**菱垣廻船積問屋仲間**に再編成する。
 - ② () — 大坂に形成された商品別の荷積問屋。1784年に株仲間となる。
- ③営業税

- (a) () — 商工業者の営業税で、金額は一定に決められていた。
- (b) () — 商工業者の営業免許税。もともとが献金としての性格を持つため金額は不定。

ウ. 小売商 — 仲買が他所商人や小売商への卸売を独占する。小売商の多くは零細商人や振売・棒手振。